

**2017年1月1日以降2018年12月31日までに
当院で腸管出血性大腸菌感染症の治療を受けられた方及びそのご家族の方へ
「腸管出血性大腸菌感染症に続発する溶血性尿毒症症候群の発症・予後規定因子を検討する症例対照研究」
へのご協力をお願い**

研究代表者：国立成育医療研究センター 理事長 五十嵐 隆
当院研究責任者：福山医療センター消化内科 医長 堀井 城一郎

1. 研究の目的

腸管出血性大腸菌感染症は嘔吐、下痢、血便などの症状を起しますが、一部の方に菌が産生する毒素によって貧血や腎障害などをおこす溶血性尿毒症症候群という重い合併症を伴います。残念ながら最適な診療については不明な点が多いのが現状です。本研究では、全国から届け出られた腸管出血性大腸菌感染症の患者さんの症状や治療とその後の経過について調べます。最終的にはこの結果をまとめて、合併症を未然に防ぐ最適な方法について検討します。

2. 研究の方法

【研究対象】

全国の医療機関にて2017年1月1日以降2018年12月31日までに腸管出血性大腸菌感染症と診断され、医師から保健所に届け出られた患者さん。

【研究期間】

倫理審査委員会承認後～ 2022年12月31日

【研究方法】

届け出られた各医療機関・保健所からの匿名化（誰の情報か直ちに判別できない状態）された情報（3.研究に用いる情報の種類参照）を国立成育医療研究センターが集め、解析します。

3. 研究に用いる情報の種類

患者さんのカルテから、年齢、性別、症状、検査結果、治療内容、合併症の有無などの情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日など、ただちに個人を特定できる情報は削除します。また、患者さんの情報が漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

4. 情報の公表

研究内容は学会発表や学術論文の形で公表する予定です。

5. 研究実施機関

国立成育医療研究センター（責任者：五十嵐 隆）
国立感染症研究所（責任者：砂川 富正）

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2020年6月30日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

独立行政法人国立病院機構福山医療センター
消化器内科 堀井 城一郎 医長

TEL：084-922-0001（代表）平日 8:30～17:00